



令和7年12月に誕生した星野リゾート
「リゾナーレ下関」。

前田市長と、代表・星野佳路氏、総支
配人・鈴木良隆氏が、下関の新たな旅
のカタチと将来像を語り合いました。

新春座談会
SHINSHUN
ZADANKAI



下関のポテンシャルが動き出す

星野リゾートが
関門海峡を選んだ理由

星野リゾート
×市長対談



下関市長

前田 晋太郎 まえだ しんたろう

市民と共に歩むまちづくりを推進。

観光を軸とした地域経済の活性化に注力し、民
間との連携による「選ばれるまち・下関」を目指
している。

新たな観光の物語を、市民と共に育てたい！

星野リゾート代表
星野 佳路 ほしの よしはる

長野県出身。

慶應義塾大学経済学部を卒業後、米国コーン威尔
大学ホテル経営大学院修士を修了。米国コーン威尔
1991年に星野温泉旅館(現・星野リゾート)
代表に就任。

観光による地域再生の先駆者として知られる。
年間80日のスキー滑走をしている。
海峡の迫力、歴史の厚みに感動しました！

リゾナーレ下関 総支配人

鈴木 良隆 すずき よしだか

埼玉県出身。

軽井沢ホテルブレストンコート、奥入瀬渓流ホ
テル(料飲ユニットディレクター)、リゾナーレ
那須(総支配人)を経験し、リゾナーレ下関総支
配人に着任。
開業準備段階から地域との交流を重ね、地元の
文化・食・人を生かしたリゾート運営に取り組
んでいる。
ワインソムリエの資格を保有。趣味は釣り。
地域と共に成長するリゾートを目指します！

市長 本当にそうですね。
星野 マスター・プランは、作る過程がすごく大事だと思っています。もちろん、これから実現していくのは、もつと大事なんだけど。

市長 星野代表に初めて海峡沿いの現地をご覧いただいた時のことを鮮明に覚えてるんです。あの時、代表は私にこう言つたんです。

「勘違いしてた。こんなにすごいと思わなかつた」って。

星野 そうでしたね。実際に立つてみると圧倒されました。コロナ禍などの困難もありました。可能性を感じて丹念に計画を磨いてきました。

市長 こんなに素晴らしいホテルを造つていただき、市民も喜んでくれると思います。

鈴木 実は何度も計画を見
市長 ホテルのコンセプトについて伺えますか。



クライン・ダイサム・アーキテクツのアストリッド・クライン氏(左)と福岡有紀氏(中央)が内装デザインを、日本設計の塚川謙氏(右)が建築デザインを担当。

直しました。最終的には「海峡のデザイナーズホテル」に行き着きました。リゾナーレブランドで「ゼロからつくり上げた」のは今回が初めてだつたんです。

市長 今まで、再生案件が中心だつたんですね。

鈴木 はい。今回は、建築設計の段階から細部までこだわり抜きました。

星野 リゾナーレのターゲットは、大人の滞在もありますが、子ども連れ、ファミリーも多いです。ただ、子ども向けに寄せ過ぎると大人に敬遠されてしまうんですね。

市長 その境界線が、難しいところなんですね。

あるかぽーと・唐戸エリア マスター・プラン

下関市と星野リゾートは、「あるかぽーと・唐戸エリア マスター・プラン」を協働で策定し、関門エリアが「日本を代表するウォーターフロントシティ」となるよう取り組んでいます。マスター・プランは、長期的に段階的な整備を計画しており、その第一弾が「リゾナーレ下関」の開業です。星野代表は、「先陣を切る私たちの責任は非常に大きい。次の段階がスムーズに進むよう、しっかりと取り組みたい」と話します。



星野 ホテルの最大の課題

が平準化なんです。夏休みは、ファミリー。秋は、大人の滞在。2月は、インバウンド。デザイナーズホテルという概念は、どのマーケットにも刺さるキーワードなんです。

鈴木 「デザインする」という言葉には、①海峡のロケーションを生かした空間のデザイン、②お客様の滞在そのものをデザインするという2つの意味を込めています。

星野 もう一つ。マスター

プランの説明会や評価委員会の中で、市民の皆さんが懸念されていた「景観への影響」には細心の注意を払いました。海峡と街に溶け込む外観を追求し、たどり着いたのが「曲線」だったんです。

アートのオブジェを置いたような外観にしてほしいと。外観設計のデザインをしていただいた日本設計の塚川譲氏には相当頑張っていただきました。建築で曲線をつくるのは、結構大変でコストもあるのは、結構大変でコストも手間もかかるんです。でも我々はそこを重視しました。

市長 驚きましたよ。エレベーターを降りて、部屋までの廊下が曲線で構成されていて湾曲してるんですね。

星野 廊下の湾曲は、外観

設計の結果生まれた副産物です。この場所で、理解を得て受け入れていただくには、大事な投資だと思いました。市長 昭和62年に、あるかばーとにホテルが計画された



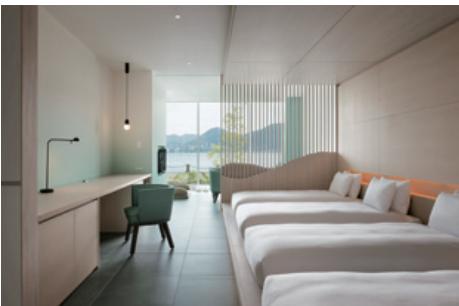
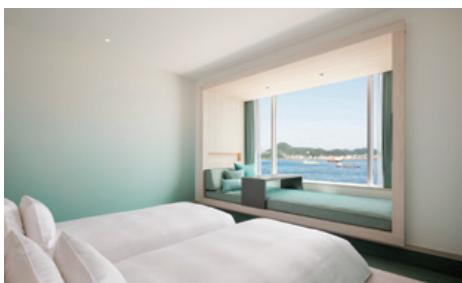
下関の皆さんの期待を裏切れない。

時から、常に市民の皆さんから景観をふさいでしまう懸念の声が出ていて、私はこれをどうクリアするか、ずっと格闘してきました。驚いていますが、今そういう声は全く聞かれません。デザインが、市民の「海峡観」と調和しているんだと思います。

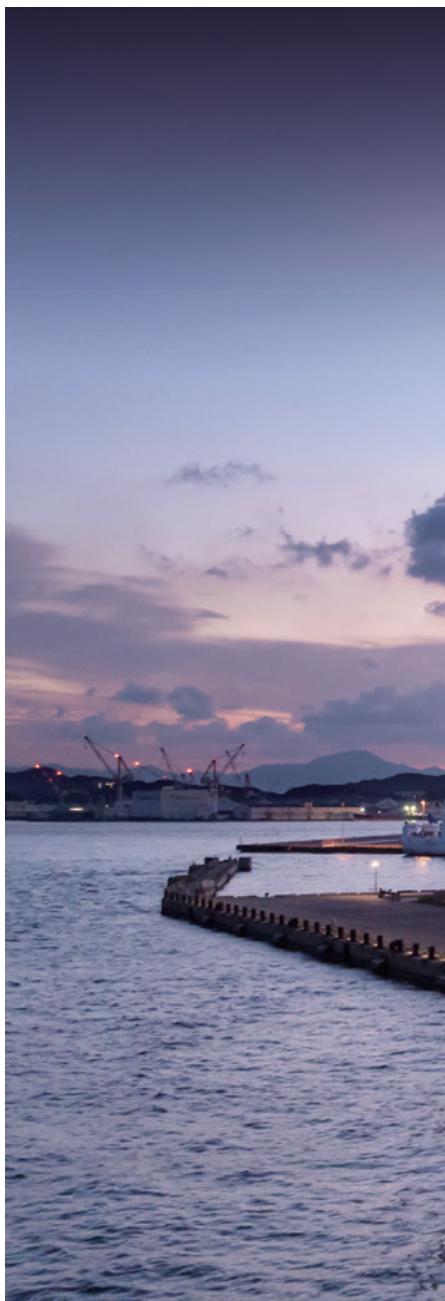
星野 景観は永続的な資産です。街の象徴として誇れるものにするために、何度も検証を重ねました。

市長 市としても、この絶好の機会を逃すわけにはいかないと考え、海響館や唐戸市場のリニューアルなど、エリアの活気を生み出せるよう、いろんな政策に反映していきたいと思っています。

全客室から海峡ビューを楽しめます。



左上: スーペリア(3名定員・38m²) 右上: デラックスフォース(4名定員・53m²)
左下: スーペリアダブル(2名定員・38m²) 右下: 愛犬ルーム(4名定員・53m²)





が上がり、既存のビジネスホテルとは直接競合しない存在になり得る。むしろ補完関係を築けます。

市長

宿泊客は、ホテルのレストランで食事をするんでしょうか。ホテルの外で食事されることを、市内の飲食業が期待していますが。

鈴木

ホテルのレストランだけでは、すべての宿泊者を賄えません。周辺に飲食店も多いので、そもそも宿泊プランに食事は付けていません。

市長

えつ?
宿泊者の4割程度が周辺の飲食店を利用されると見込んでいます。

星野

今後の観光を考え上で大事なのは「連泊」です。が変わった要因の一つです。下関には素晴らしい観光資源があります。狙うべきは、ビジネス客ではなく、リゾート・観光客。3世代のファミリーでも過ごせる設計にすれば、結果的に部屋単価

ようとか、そういう時間も余裕も生まれる。地域との連携は自然と強まります。

市長

星野リゾートでは、宿泊者用のアクティビティを充実させるなど、連泊を強く促進しています。

星野

DGsにも沿います。観光産業が出している二酸化炭素は、半分が「移動」です。例えば、年間10泊の観光旅行をする人が、1泊を10回ではなく、2泊を5回にしてもらうと、1泊当たりの二酸化炭素排出量が半分になります。移動コストも同時に減るので同じ予算で旅行回数を増やすこともできます。

市長

また、消費の仕方にも変化が現れます。旅行金額の約3分の1は交通費なんです。これは、JRや航空会社の収益で、地元には落ちません。連泊が増えるほど観光消費の多くが地元に回る。SDGsにも地域経済にも良い構

造です。観光地経営にとつて重要な視点です。

市長

私は、多くの方に、この関門海峡の景色をゆっくり見てほしいと、ずっと思つてました。関門海峡は、1日に何度も流れが変わることで、朝夕夜とで趣が変わり、いろんな船舶が通航します。

星野

連泊して、いろんな表情をじっくり見てほしいですね。
鈴木 海響館、唐戸市場、船で巖流島や門司港へ。火の山公園もあるし、1泊では到底足らないです。

星野

魅力が一つずつ磨かれれば、地元への経済効果は大きく変わると思いますね。

市長

最後に、この街への期待をお聞かせください。
鈴木 街の方々から温かい声を多く頂き、すごく応援していただいています。裏切れないという感覚で、地域にとつてプラスになる形を追

及していきたいです。

市長

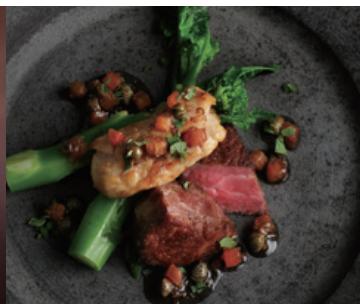
星野リゾートは、地域に入り込んでくださるのが魅力だと思います。今日も、スタッフの皆さんの笑顔、柔らかいウェルカムな雰囲気、素晴らしいですね。下関市民の意識も変わったんじゃないかなと思っています。

星野

一つのホテルだけで地域が良くなるわけではありません。マスターープランをさらに進めていくことが大事で、その機運を高めるために「下関には日本を代表する観光地になるポテンシャルがある」と示す役割があると思っています。そして、ハード面の充実だけでは持続可能な観光地にはなりません。ソフト面を継続的に進化させていくには、DMO*の機能が非常に重要です。今後、その活動にも関わっていきたくと考えています。

市長

れないう感覚で、地域をありがとうございました。



グルメ

左・中央: メインダイニング「OTTO SETTE SHIMONOSEKI」 右: ビュッフェダイニング「PUKU PUKU」

どちらも下関ならではの食体験が楽しめる内容になっている。メインダイニングでは、デザートと前菜以外はすべての料理にフグを使用したイタリア料理のコースを提供し、今までにない新しいフグ料理を楽しめる。ビュッフェではフグを使った料理はもちろんのこと、郷土料理の瓦そばなど、豊富なメニューが用意されている。



Books & Cafe (宿泊者以外も利用可)

窓からは関門海峡が見える開放的なカフェ。海の生き物や下関にまつわる書籍などおよそ500冊の本を自由に読むことができる。オリジナルのカップケーキとドリンクのセットなどを楽しみながらくつろぎの時間を過ごせる。



ふぐプール

上: インフィニティプール

水面が海や空と一体となるような設計。プールの水には関門海峡の海水も一部使用されている。

下: 全天候型屋内プール

大胆で遊び心のあるデザインの全天候型屋内プール。



アクティビティ

上: 海響館講座

海響館が世界一の“ふく”の展示種数を誇るという特徴を生かし、フグにフォーカスした講座で、つい海響館に見に行つてみたくなるような内容に仕上げ、周辺観光を促進する。

下: はじめての関門海峡

海船の交通ルールを楽しみながら学べる内容だ。

この景色とともに始まる、下関の新しい旅づくり。

